

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年8月1日

107号



パンタナールの楽園

てきて、蜜を吸う姿も親しみを感じます。

黄色イペーは、先号の桃色イペーと仲間ですが、木肌はザラザラして異なります。花もやや大きめであり、散る時はハラハラ散る桜の風情ではなく、くるくる回りながら踊りつつ地に着きます。木全体が桃色イペー程には花で覆われませんが、南国の青空に映えて美しい姿が印象的です。(写真は残念ながら曇り空でした。)

レダでは8月を前後して咲くことが多いですが、時折6月頃に咲いて、もう一度咲いたりしたこともあります。気象異常の影響でしょうか。

(写真と文: 飯野)

鮮やかな黄色の花が葉の無い枝に咲くと、そこだけ光が溢れた天の園にいるような錯覚を覚えます。ラッパ型の花に、ハチドリやクマバチがやっ

九月孵化成功を目指して

今年の9月にも、再度ふ化を

パクー養殖

試みようとは様々な準備がなされています。今年の一月、パクーの孵化に向けてアスンシオン大学のマグノ教授が、来園しました。教授は今まで準備された設備を点検、設備は優秀であると太鼓判を押していました。親魚及び孵化させる卵を入れる水槽の水の温度調節をしっかりと管理する必要があるからです。川の水温は、朝方は25℃26℃ですが、孵化用の水温は27℃が適温です。一℃を加熱した水を加えることで、常にその温度をキープする必要があります。

親魚は2年もののが、若くて元気があり適しているとのこと。普通一匹で15万〜20万個の卵を産みますが、孵化率が技術によって差があり、教授は70%位を目指しています。

一月は初めての挑戦であり、産卵期の適切な親魚が育っていないかったために採卵と孵化ができませんでした。今回は、禁漁期の2月初めの解禁から、川でメスの親魚を釣り上げて、産卵、孵化を自分たちの手で成功させようと中田所長も張り切っています。下の写真は上山貞和さんが、パクーの体重を測定しているところです。東野正義さんのボートで、釣りを終える5分前に体長50cm、3・7キロの大きなメスのパクーが釣れました。これが後ろの池に入れた1

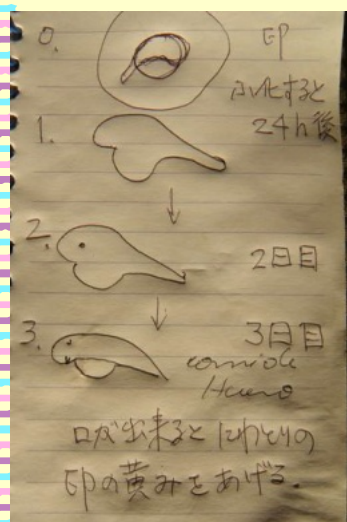


5匹目の親魚候補のパクーとなりました。(上の写真)卵をもつ事を期待しています。



◎パクー卵の成長(0→3へ)と養殖場配置図

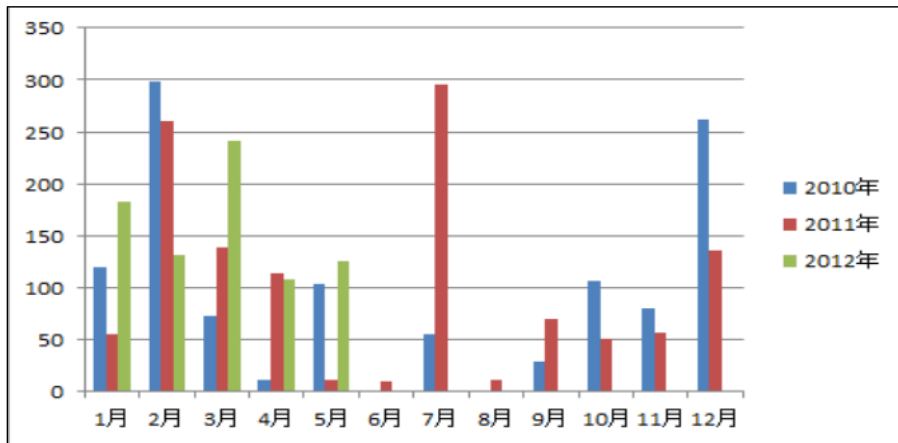
卵から孵化して24時間後は、まだ目がないお腹の膨らんだ1の状態。2日目には、目が出てくる。3日目には口も出来る。この時には、鶏の卵の黄身を上げるとよい。稚魚はプランクトンやミジンコを食べる。



レダの雨量 (単位mm)

昨年の20年ぶりのパラグアイ川の洪水は、レダをはじめ周辺に多大の被害を与えました。レダもほとんど復

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2010年	119	299	72	11	103	0	55	0	29	107	80	262
2011年	55	261	139	114	11	9	295	11	69	50	56	136
2012年	183	131	241	108	125							



旧していますが、多くの植樹林が被害を受けました。最近2年半の降雨量は、変わりませんが、上流地域の降雨量が大変な被害をもたらしました。今年は平年通りの降雨量で、もちろん洪水



の心配はないと言われていいます。しかし、今年の川の水は渇水状態のようです。

第12回国際協力青年奉仕隊

(2012年8月25日～9月11日)

ミンガグアス市

ミンガグアス市においての植樹活動は市の職員、そして市民とともに活動を開始し、2週間ほど前に160本の苗木を植え、数日前に300本を超える苗木を市に提供し、苗木の植樹をしました。(左写真)今後、継続的にエステ市の育苗所から苗木を提供し、市のクリーンモデル市建設を推進することになります。

青年たちが到着する時は市を挙げて植樹活動になると思われます。柴沼記

マリア・アウシリアドーラ

国際協力青年奉仕隊の準備をしながら、レダの隣の牧場の責任者、ジャイロ氏とアスンションで会って来ました。その時の話の中で、彼も私たちが今回、青年奉仕隊が奉仕に行こうとしているマリア村の学校の屋根が完全に吹き飛ばされ、半年以上も修復されていない現状を知っており、彼自身がその修復をしたいと考えていたとのことでした。私も学校訪問をしてその惨状を見、学校の屋根の修復をしてあげたいとの思いがあふれましたが、修復のすべての費用を青年奉仕隊の支援の一環として行うのは簡単ではないと苦慮していました。しかし、ジャイロ氏がそのプロジェクトに参加し、具体的な援助をともにしていく方向になってきました。

別の機会に建築技師の方に会い、マリア村の教会を彼が主導し、建築し、その費用を担当したとのことでした。そして、青年奉仕隊がマリア村の学校の修復を今夏行うことを計画していると話すたびに、自分たちもそのプロジェクトに参加したいと話しが進展しました。柴沼記

絶滅危惧種の多い国

順位	国名	絶滅危惧種の数
1	エクアドル	2,211
2	アメリカ合衆国	1,203
3	マレーシア	1,167
4	インドネシア	1,127
5	メキシコ	898
6	中華人民共和国	840
7	オーストラリア	804
8	ブラジル	769

世界における絶滅危惧種

人間の経済活動の促進によって、樹木が倒されたり道が舗装されたりして自然がなくなると、生物の今までの環境ガラッと変わり生存できなくなってしまう。

元々、数が少なかった種では絶滅が危ぶまれています。日本の「朱鷺・とき」などは、絶滅種の代表です。2003年に最後の日本産トキ「キン」が死亡し、現在生き残っているのは中国産の子孫のみとなりました。

絶滅が危ぶまれる種は、早めに対処して保護活動を行うことが大切です。

日本でも、ニホンカワウソや、ニホンオオカミなどが絶滅したのではとされています。特に、今心配されているのは、絶滅危惧種(頭数は推定)として、イリオモテヤ

マネコ 約100頭・ダイトウオオコウモリ 約300頭・アマミノクロウサギ 2000～4800頭などです。

一方、世界の絶滅危惧種は、ホッキョクグマ 約22000頭・ジャイアントパンダ 約3000頭・ベンガルトラ 約3176～4556頭・クロサイ 約3600頭・ユキヒョウ 約4000～7000頭・マウンテンゴリラ 約785頭・アビシニアンジャッカル 約442～487頭・アラビアオリックス 約800頭・ヨウスコウカワイルカ 100頭以下(既に絶滅の可能性有)などです。

南米でも、オオアルマジロ(右下の写真)が絶滅危惧種として挙げられますが、日本では最近かわいいと人気のあるカピバラですが、インディオの人たちにとっては、両者ともに重要なタンパク源になっています。国際自然保護連合(IUCN)が2008年に発表した、世界の絶滅危惧種の数です。国別では、エクアドルが2211種で最多でした。海岸、高原、熱帯雨林、ガラパコス諸島と生物多様性の宝庫ですが、紛争や開発で森林破壊が急速に進んでいるそうです。他にはマレーシア、インドネシア、ブラジルなど近年開発が進んでいる国がトップ10に顔を出しているようです。日本では309種の絶滅危惧種があります。



再度のお願い！！

第12回国際協力青年ボランティア隊へのこれまでの御協力ありがとうございました。

今年はパラグアイでの奉仕の活動が多岐にわたっており、今までの奉仕隊の予算以上に経費が必要になっています。

マリア村の屋根の修復作業、ミンガグアス市の植樹活動も市が緑あふるるクリーン都市づくりを目指しており、パラグアイのモデル都市となるため、3万本の苗木を市内各地に植えることになっています。南北米財団が苗木を提供します。

アスンションでも第12回青年奉仕隊を記念し、育苗所を造成し、植樹活動を進めることとなります。今までの実績をもとにより一層の期待が青年奉仕隊に寄せられています。7月の中旬までに550万円の支援が集まりました。

今回の必要経費が800万円です。残された時間が少ない中ですが出発前まで支援を受け付けますので是非、よろしくお願いいたします。（責任者 柴沼より）



1958年森林を伐採し、ミンガグアス市を設立



マリア村の学校の屋根の状況

(2012年6月訪問時)



市の緑化キャンペーン開始

地球家族として

自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

南北米福地開発協会

Eメール

office@asd-nsa.jp

ホームページ

<http://www.asd-nsa.jp>